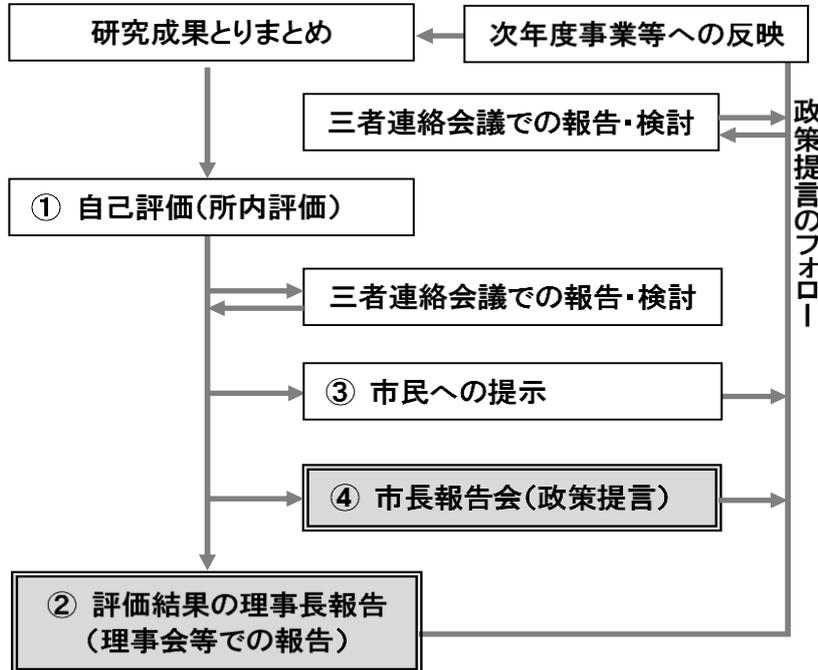


平成30年度研究成果の評価について

1 中期ビジョンにおける評価の仕組み

(1) 評価のプロセス



(2) 評価指標

研究所の役割	評価指標
広義の都市交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数
	3) 論文賞等の受賞
	4) 競争的研究資金の獲得件数
交通まちづくりの推進	5) 市への政策提案件数
	6) 豊田市はじめ行政等からの受託研究の受注件数(金額)
	7) 地域に関わる研究テーマの件数
	8) 地域活動への貢献(委員・講師等)
世界への情報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施
	12) 機関紙・年報の定期発行
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等の開催数, イベント出展数
	14) 各種行事記録集の発行:種類
	15) マスコミの露出度:報道・出演回数

2 評価指標を用いた評価の結果

(1) 定量的な指標による結果

役割	評価指標	平成28-29年度 平均	平成30年度
① 広義の都市 交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数	1.8	1.6 ↓
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数	17.5	27 ↑
	3) 論文賞等の受賞	0.5	1 ↑
	4) 競争的研究資金の獲得件数〔科研費〕	1	2 ↑
	競争的研究資金の獲得件数〔その他〕	2.5	4 ↑
② 交通まちづ くりの推進	5) 市（地域）への政策提案件数	7.5	12 ↑
	6) 受託研究の受注件数（件）	14.5	25 ↑
	7) 地域に関わる研究テーマの件数	15	35 ↑
	8) 地域活動への貢献〔委員・大学等講師〕 〔講演〕	40.5 23	37 ↓ 34 ↑
③ 世界への情 報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数	13.5	15 ↑
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催	0	1 ↑
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施	0.5	0 ↓
	12) 機関紙・年報の定期発行	5	5 →
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等 の開催回数, イベント出展	13.5	15 ↑
	14) 各種行事記録集の発行：種類	1.5	2 ↑
	15) マスコミの露出度：報道・出演回数	9	9 →

(2) 総括

総括1：従来の「4分野」から「2つの方向性」と「一つの重点課題」に変更したため、テーマの対象範疇の単純な比較はできなくなったが、新しい方向性として位置付けた都市計画関連のテーマが増加したのは明らかであり、新中期ビジョンにおける強化すべき方向性は形成しつつあると言える。

総括2：豊田市をはじめとする地方都市への貢献を強く意識したことにより、地域に関わるテーマやその結果として行った政策提案が多くなった。

総括3：新中期ビジョンの検討で中長期的課題である財政の問題を強く意識して、受託研究の件数を大幅に伸ばすことができた。

総括4：財政課題への対応と研究所のプレゼンスの向上を念頭に置いた研究員の積極的な外部資金の獲得への努力の結果として、競争的研究資金の獲得件数、特に、科研費以外の資金の獲得は堅調に伸びた。

総括5：新中期ビジョンの開始に併せて、平成30年度初めから研究員の外部兼務に一定の条件を設けるルールが制定されたため、委員や非常勤講師等の件数が減少傾向となった。しかし、「講演」を多く行うことで国内外への研究成果の還元ができたため、「地域活動への貢献」については、これまでと遜色のない実績を挙げたと判断できる。

総括6：全文査読付きの論文数がやや減少しているが、査読なしの論文数が増えているため、現時点で研究成果に大きな影響ないと考える。ただし、この結果は受託件数や地域対応で業務が忙しくなったことが多少なりとも影響していると考えられるので、今後、「研究所」としてのプレゼンスを維持するため、適切なバランスを検討していく必要がある。

総じて、5か年度の初年度として、新中期ビジョンで決定した方向性で上々な滑り出しの一年間であったと評価する。